

KSK

フレッシュ厚木

2023 年 10 月号 第 264 号

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター横浜ボール 3F 横浜市車椅子の会内
編集 精神保健福祉促進会 フレッシュ厚木
〒243-0202 厚木市中荻野 1702（小野）
TEL/FAX 046-241-0438
定価 20 円（会員は年会費に含まれています。）



…………… 障がい福祉課とのフラットトークに思うこと ……………

9 月 24 日、障がい福祉課から 2 名（係長、主任）、家族会からは 15 名参加し、「障がい福祉課と家族会のフラットトーク」を開催した。会員からは、「交通費補助や医療費の補助の申請を何年も前から行っているが、なかなか実現しないが、どう思うか」、「グループホームの入居に関する質問」、「親亡き後に残された当事者がどうしているのか、ちゃんと生活しているか」など多くの質問が出された。特に親亡き後の一人暮らしについては、「親がいなくなっても皆さん生活できています。そのためにも普段から当事者やその家族が、社会とつながっていることが好ましい。中には親がいなくなってから良い意味で大化けする人もいますので、あまり心配しなくても良いですよ」との回答については大いに勇気づけられた。

また当事者のご両親が見学という形で初めて参加し、皆さんの話を熱心に聞いておられ、後日電話で「とても参考になり良かった」との連絡をいただいた。これまで家族会などには入っていないらしく、ご夫婦で今回のフラットトークに参加したとのことだが、1 時間半という短い時間だったが、「良い刺激を受けた」との感謝の言葉をいただいた。このような言葉をいただくと、家族会の運営は大変だけれども、家族会を続けていて良かったとあらためて感じた。今回参加者は多くはなかったが、行政サイドとの意見交換はとても参考になるのでこれからも開催していきたい。そして多くの人に参加していただけるよう、フレッシュ厚木ニュースなどを使い、PR していきたい。

…………… 家族と当事者の教室を終えて ……………

9 月 15 日に第 1 回目となる家族と当事者の教室が合同庁舎にて開催されました。昨年に続き愛光病院の高井先生による精神症状の理解と対応についてのお話を伺いました。精神疾患についての基本的な症状などがシンプルにまとめられ分りやすく理解がより一層深まりました。統合失調症や双極性障害は内部原因性という育て方や家庭環境が直接的な原因で発症する疾患ではないということですが未だ原因は不明のようです。時として発病したことに対し親としての責任を問われた時に心の支えになりそうです。今回は家族に向けてのメッセージが多く、家族の苦しみにも理解を示され温かさのようなものを感じました。講演後には家族会の紹介があり、日頃の活動を通して感じている事や、個性豊かなメッセージもあつたりして楽しい一時でした。初めての試みの複合的な（リモート）開催でしたので携わって下さった関係者委員の皆様本当にご苦労様でした。

…………… 障がい者体育大会に参加して ……………

9 月 30 日に第 62 回障がい者体育大会が荻野運動公園体育館にて 4 年ぶりに開催されました。体育館はすでに熱気に包まれ、開会式では市長が公務で不在のため副市長が代理で挨拶されてエッ ビックリ！何と同級生！偉くなられました。選手宣誓では会の息子さんが選手代表に選ばれて立派に役目を果たされました。会からは 8 名が参加し自分の体と相談しながら思い思いに競技に出場していました。観戦したり、おしゃべりしたり、あゆこロちゃんとかじゃんけんゲームで景品をゲットしたり参加賞の中身を交換し合ったり、大会の締め括りは全員参加の鈴割で今日一番の白熱競技！無事に終了しました。障がいのある無しにかかわらず皆入り混じって体を動かし最高な一日になりました。

【ご案内】

障がい者の就労を考える

皆様とともに障がいを理解する、知恵を出し合うことで、障がいとなることなく、彼らの強みとなり社会貢献の場への道となるのです。

～プログラム～

1部 ・ご挨拶：海老名市保健福祉部障がい福祉課

・プレゼンテーション：就労支援事業所に通う利用者様

2部 ・パネルディスカッション「障がい者の就労を考える」

パネリスト：株式会社トーモク、海老名市市長室職員課、障害者就業・生活支援センターぼむ他

日時 2023年11月16日(木) 13:30～16:00（12:30 受付開始）

場所 海老名市総合福祉会館 娯楽室

費用 無料 申込制

定員 30名様（定員になり次第締め切ります）

対象 企業様・障害のある方、同支援機関、同団体等関係者様

主催 発達障がい児者家族会「そのまんま」

協同 就労移行支援事業／就労定着支援事業 アビリティーズジャスコ海老名センター

就労移行支援事業・就労定着支援事業 ウェルビー本厚木駅前センター

就労移行支援 プラーナ海老名 県央地域就労援助センター

障害者就業生活支援センター ぼむ

※ 参加希望の方は、取りまとめてFAXで送りますので、フレッシュ厚木事務所(小野)までご連絡ください。



令和5年度 成年後見制度地域連携後援会

成年後見制度の現状と課題

～地域連携ネットワークの構築に向けて～

成年後見制度は、本人に不利益が生じることのないように支援する制度であり、本人を支えるためには福祉、医療、法律家、後見人等が地域でネットワークを築いていく必要があります。この制度の現状と課題、地域連携ネットワークについて、講師の方がわかりやすくお話しします。

日時 令和5年 12 月14日(木) 14:00～16:15（開場 13:30～）

会場 あつぎのえいがかんkiki（アミューあつぎ 9F）

対象 厚木市在住・在勤の方

定員 100人（応募多数の場合は抽選）

参加無料 参加者には粗品を進呈

講師 又村 あおい氏 全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事兼事務局長

障害者総合支援法、児童福祉法をはじめとする障害児者福祉制度全般や障害者差別解消法などの権利擁護施策と障害のある人の意思決定支援、障害のある人の暮らしとお金、障害児者支援を通じた地域づくりなどが主な活動分野。

申込先 厚木市権利擁護支援センターあゆさぽ(厚木市社会福祉協議会) TEL:046-225-2939

申込〆切 令和5年11月10日(金)

共催：厚木市福祉部 介護福祉課・障がい福祉課 厚木市権利擁護支援センターあゆさぽ

活動報告

9/24 フレッシュ厚木理事会・定例会	18 名	9/26 福祉の広場実行委員会	1 名
【理事会議題】		9/30 第 62 回厚木市障がい者体育大会	8 名
① ポスター配布について ②フラットトーク		10/1 赤い羽根街頭募金	1 名
③ 11 月講演会 ④バス旅行 ⑤要望書		10/3 じんかれん理事会	1 名
⑥県民の集い等じんかれんから		10/5 県民の集い小田原会場下見	2 名
【定例会】障がい福祉課とのフラットトーク		10/5 厚木市障害者協議会実務者会議	1 名
情報交換		10/6 第 2 回保健福祉審議会	1 名
9/26 厚木市地域交流事業実行委員会	1 名	10/11 臨時理事会	7 名

令和 5 年 11 月 定例会 第 2 回研修会のご案内

日 時；11 月 12 日（第 2 日曜日）13：00～15：30

場 所；厚木市保健福祉センター 4 階研修室

テーマ；親亡き後の生活について（仮）

講 師；カウンセリングルーム そらいろ 井上雅裕氏

井上先生の講演を聞いた後、グループ毎にディスカッションを行い、その結果を報告する。最後は質問タイムとする。

尚、11 月の定例会は今回の研修会に変えることにいたします。

- ・理事会 10：00～
- ・12 月の定例会は 17 日



第 49 回『県民の集い』in 小田原

ピアサポートの輪をひろげよう！仲間があなたを支えます

日 時 2023 年 11 月 11 日（土）13:00～16:00

場 所 小田原三の丸ホール 小ホール

参加費 無料（定員 300 名）※要事前申込 ⇒ 会場は小田原城址公園のすぐ近くです。誘い合
【プログラム】 って参加しましょう。参加ご希望の方は、フレッシュ厚木事務所（小野）までご連絡ください。



12:30 開 場 （受付）

13:00 開 会 開会あいさつ

13:30 基調講演 聖学院大学 心理福祉学部 心理福祉学科
教授 相川 章子（あいかわ あやこ）氏

14:30 シンポジウム

コーディネーター：相川章子氏 シンポジスト：相模原市あしたば会、秦野市ぱれっと・はだ
のピアサポーター、南足柄自立サポートセンタースマイル、おだわらピアステーション

16:00 閉 会

◆主催 NPO 法人じんかれん TEL 045-821-8796（火・木 10:00～16:00）

◆共催 小田原 梅の会

【2023.6.30. 読売新聞より】

共生のまちづくり

障害ある人もない人も



仲間たちと、高齢者向けの弁当をつくる
まっちゃん(左)（山出憩いの里温泉で）

相手を思いやること。調子が悪い時、
気遣ってもらふこと。ほっとする気持ち。
どれも自分が求めていたものだ。愛媛県
の南端、愛南町にある温泉施設「山出憩
いの里温泉」で働く魅力を、まっちゃん
（58）はそんなふうと思う。

午前6時、併設の調理室に出勤する。
仲間とつくる1日約100食の弁当（6
00円）は、地域のお年寄りの家々へ。独
居の人が多い。栄養バランスを考えた彩
り豊かな弁当が、みんなの命をつなぐ。

温泉施設の運営も配食も、精神科の旧御
荘病院（現・御荘診療所）と町の有志が、2
006年に設立したNPO法人「ハート・in
ハートなんぐん市場」の事業だ。「障害の有
無にかかわらず、多様な人が、地域で『共に
生き抜く』まちづくり」を目的としている。

まっちゃんは、20年前からうつ病を患う。
自分を否定し、死にたくなることもあった。
受診した旧病院に紹介されたこの仕事は、
11年目に入る。温泉施設で働く仲間たち
10人も精神疾患を抱える。あつたかい関係
性が、生きる支えだ。

なぜ病院がNPOを設立したのか？ 二つ
の流れが“融合”し、それをチャンスに変え
たのだ。

統合失調症や認知症の人などの入院を
担っていた旧病院は、1970年代、患者の
自立を進める先駆的な社会復帰施設「平
山寮」をつくった。患者を地域へ。祭りや音
楽会、みかんの収穫の手伝いなどを通じて
患者と町民が交流した。商工会の人々や
保健所、町内の県立病院も、町のネットワ
ークに加わった。

旧病院は149床あった病床の削減を続
けた。患者の受け皿にと、2005年以降、

グループホームやデイサービスの事業所、
小規模な居住系施設などを続々と設け
た。この動きは、施設入所や入院ではない
暮らしを望む認知症の人など、高齢者ケ
アの充実にもつながった。16年、無床の
「診療所」に変身を遂げた。

一方、町は衰退に向かった。04年、大企
業の工場の撤退で約600人が働き口を
失い、下請けの倒産が相次いだ。人が顔を
あわせれば、「仕事がない」。若者が去り、
水産業も農業も低迷する。同年、30%
未滿だった高齢化率は、現在45%超。町
は縮小し、みんなが追いつめられていた。

医療や福祉の充実だけでは、「共に生き
抜く」道は見えない。今は診療所長となっ
た長野敏宏さん（52）らは、雇用を生み、
患者や住民の居場所をつくるため、地域
産業の事業化に挑戦した。なんぐん市場
の活動は多角化していった。

まっちゃんもその一角で生きる。「1日6
時間。効率優先で働けるほど強くはない。
でも、私には今、希望が
ある」と話した。

